

第 392 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 令和 5 年 6 月 13 日 (火) 11:00~13:00
2. 場 所 静岡エフエム放送本社会議室
3. 番組聴取講評 [番組名] K-MIX MOVE ON
[放送日時] 令和 5 年 6 月 5 日(月)・令和 5 年 6 月 8 日(木)
15:08~18:55
[出演者] 6/5 (月) 芦沢ムネト・川崎玲奈
6/8 (水) バカボン鬼塚・牧村一穂
4. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 副委員長 角田哲康
委員 服部乃利子 委員 加藤裕治
委員 小野晃司 委員 土屋維子
[会社] 代表取締役社長 井熊正浩
取締役放送事業本部長兼編成制作部長 杉山啓充
編成制作部専任部長 鈴木秀明
編成制作部担当部長 寺田和史
5. 事務局報告 ○ K-MIX の、2023 年 7 月からの組織と人事異動の報告。
6. 番組審議
[番組名] K-MIX MOVE ON
[放送日時] 令和 5 年 6 月 5 日(月)・令和 5 年 6 月 8 日(木)
[出演者] 6/5 (月) 芦沢ムネト・川崎玲奈
6/8 (水) バカボン鬼塚・牧村一穂
[番組内容] そこにいる今のあなたと、リアルタイムでつながる
ラジオ番組。楽しかったことはもちろん、あなたの
心のもやもやもどんどん言ってきてください。
いい音楽をたっぷり聴いて、今日のあれこれは 19 時
までに笑い飛ばして、前へ、前へ、一緒に MOVE ON
しましょう。元気の出る放課後ラジオ。

[聴取・合評での主な意見]

土屋委員

放送時間が長い番組なので、番組のポイントをどこに置くのか、そして、長時間の中で、どこで、力を抜くのがポイント。水・木の牧村さんは、初めての生ワイドレギュラーではあるものの、かなり積極的に、番組に参加していることがわかる。一方で、月・火

の芦沢さん、川崎さんのコンビは、開始から2ヶ月経つが、完全には番組内のテンポをつかみ切れていないところも感じる。これから、良くなって行くのかが注目。番組の内容に関して、先月審議した、昼の生ワイドと今回の時間帯を通して聴くと、昼～夕方時間帯のK-MIXの情報提供番組が薄くなったように感じる。

小野委員

芦沢さんのツッコミタイプのトークが、徐々に柔らかくなってきていると思う。ただ、芦沢さん本来の持ち味でもある、「茶化す」要素は、静岡県では、馴染まないことがあるので、そのあたりは、注意すると良いのではないかと。また、この芦沢さんの特徴によって、川崎さんとの距離を作ってしまう場合もあるが2人とも生放送を良く務めている。

牧村さんは、バカボンさんのリードを活かして、番組の一体感を作ろうとしている姿勢が見られる。声の出し方に工夫があると、より耳を傾けたいと思う。番組としては、期待するところが、たくさんある。K-MIXは、静岡県内の聴取者とつながった情報を基本として存在感を出してみてもどうだろうか。

加藤委員

芦沢さんのトークが、なにかといじる要素が強いので、川崎さんとの接点を取りにくくなっており、川崎さんは、受身専門になっているように聴こえる時がある。

番組としては、一般的な情報をもう少し、取り上げたり、説明したりすることも必要であると思われる。

牧村さんは、会話の勘は良いと思う。バカボンさんとの相性が良いのかどうかは、もう少し判断に時間が必要だが、牧村さん自ら、相手に近寄ろうという姿勢が見え、バカボンさんも、相手を探ることから、言葉数が多くはなるが、会話をつなごうとしている。

始まって2ヶ月ではあるが、放送時間も長いので、そこをどのようにきれいに埋めて行くのかを探っている状況ではあると思う。

服部委員

“元気になる放課後 RADIO”というコンセプトの通りに、明るく元気にトークして行くのか、と思いきや、芦沢さんのトークのテンポに対して、川崎さんが距離を置いていると感じた。別の日に車中で聴いた時には、それぞれのパートでトークの味が出ていたので、2人のトークの時のテンポ感を良くするようにして行けばよいと思う。

バカボンさんは「笑いの雰囲気」を作ることが非常にうまく、牧村さんを引っ張って行こうというとしている意志を感じる。牧村さんものびのびとバカボンさんについて行こうとしている。

全くタイプの違うコンビが担当している番組なので、それぞれの個性を活かしたトークが繰り広げられる番組になって行くと良いと思います。

角田副委員長

声質の組み合わせとしては、2つのコンビはベストな組み合わせだと思われる。

端的に、月・火は川崎さんの成長の著しさを感じ、水・木はバカボンさんで番組が保たれている。

芦沢さんの声質は非常によく、存在感がある。しかし、押しの強いトークであるため、内容が残らない場合がある。川崎さんという相手としっかりと会話するか、聴取者に寄り添ったトークを心がけてみては、いかがであろうか。

バカボンさんの安定性を得て、牧村さんは自信をつけてきていることが伝わってくる。バカボンさんとコンビを組んで大きく成長したかつての川崎さんのように、大きな期待が持てる。現在は、バカボンさん、そして、番組の流れについて行くことに主眼が置かれているが、番組を離れた時に、牧村さん自身のコメント力を高めることを心がけるとさらに、良くなるのではないだろうか。

木宮委員長

月・火と水・木でスポンサーの数に差があるためかトークの自由度に差があるのではないかと思われるが、コーナーが混み合っている方の自由度を少しでも多くすると良いと思う。

番組内には、いぬじゅんさんのようなメジャーでもあり、トークも立つ方がいるので、それらをより活かしてみてもどうだろうか。

芦沢さんのトークは、本人のトークの特徴として、ひとつひとつをしっかりと取り上げて膨らませて行く所があるので、長いと感じる時もある。例えば、短くつなぐトークのようなところも設けてみてはどうだろうか。

全体的に、夕方のライブ番組の特徴をどう見せるのかが課題。もう少し真面目なコーナーや、シリアスなコーナーがあっても、緩急がついて良いかもしれない。静岡県内の情報を取り上げるものがあっても良いのではないかと思われる。

